
~ 東方夢想乱舞 ~

十六夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～ 東方夢想乱舞～

【Nコード】

N0481BA

【作者名】

十六夜

【あらすじ】

森の中で転けたら幻想入りしてしまった男の物語

幻想入り？（前書き）

はじめまして、十六夜と言います、初めてかく小説なんで読みにくいと思いますがよろしくお願いしますm（――）m

ちなみに作者は物凄い車好きです（^―^ゞ

作品にたくさんでるかもしれないですが気にしないで下さい（笑）

幻想入り？

何が起こった…？

わからない…

ここは何処だ…

〔数時間前〕

その日は友達と約束して高校生ながら秘密基地でも作ろうと森の中を散策していた。

その時だった、たしか足を滑らせて坂をゴロゴロと転がったと思ったら変な穴のような物に落ちた、そこからの記憶が無い。

「そして起きてみると穴の中じゃなくて草原ね…どうなってんだ？」

見上げてみても穴なんてない、それどころか青空が広がっている。

「喉…乾いた………サイダーでも飲んで…」

そう思ったとき、

「うおっ！！」

なんと手元にサイダーが出てきた、

「なんで？まあいいか」

サイダーは美味しく頂きました

その後、

「とりあえず町か村でも探すか」……」

そう思い森に入ってしまった、
しばらく歩いた、

「迷った……」

ガサツ

背後から不気味な音がしてきた、

（ちょ、マジですか？熊ですか？それともなんかもつとヤバイやつ
？）

後ろを向いて身構えようとしたその時、
それは現れた、

「グガアアアアア！！」

「なんだコイツ！！」

それは俺を見るなり襲い掛かってきた、

（ヤバい！！壁かなにか盾になるもの！！）

「うわああああ！！！」

俺、死んだな…

その時、

目の前に大きな壁が出てきた、

「グオツ？」

突然現れた壁にそいつは驚いたのか怯んでいた、

「今のうちにつ！！！」

やっとの思いで俺は逃げた、そして森を抜けた、

「た…助かった…」

しばらく歩いたら川があった、

（そういえば壁の事想像しただけで壁が出来たな…サイダーも…、
もしかして？）

車を想像してみた、
すると、

立派な俺仕様のランサーエボリューション？が出てきた、

「うおおおお！！！」

（マジで？もしかして俺なんでも作れたりするの？なら次は…家
？ついでにガレージも）

豪邸が出てきた、
ガレージ付きの、

（ここどこかわかんないけど…）
「ここで暮らしちゃおっと」

こうしてこの男は幻想入りした、

～次の日～

ブオオオン！！

森の中に爆音が響いていた、

「ヤッホーイ！！」

その男はひたすら走りこんでいた、
その森である人にで出会った、

「うわっ！！」

いきなり前に人が出てきた、

「ドリフト！！」

ガガガガガー！！

ギリギリ回避できた、

「危ないな！！なにしてんだよ！！」

魔理沙は正直ビビっていた、なんせキノコを探してたら変なのが突っ込んできたからだ、

「悪い！！大丈夫か？」

それから出てきたのは外来人の男だった、

（か…カッコいい…）

それが第一印象だった、

「誰だ、あんた？この辺じゃ見ない顔だな、」

「俺は武藤龍輝、お前は？」

「あたしは霧雨魔理沙、よろしくなっ！」

（ん？霧雨……魔理沙……まさか…）

「あの…魔理「魔理沙でいいぜ」んじゃ魔理沙」

「なんだ？」

「もしかしてここって幻想郷？」

「そうだぜ？」

（マジで？んじゃ俺東方の世界に？）

「そうか…わかった、んじゃ、またな」

「ちょっと待てよ！どこか行く宛あんのか？」

「ある、来るか？俺の家」

「いく！」

「わかった、とりあえず乗れ」

そうして俺は魔理沙を乗せて家に帰ることになった、

「しっかりつかまれよ！！」

「わかった！！」

ブオオオオン！！

けっこう飛ばして帰った、

「ついたぞ？」

「楽しかった」 また乗せてくれよ？」

「はいはい、まあ帰りも乗せてくから」

「やったぜ」

「んでこれが俺の家」

俺は目の前の豪邸を指差した、

「でかいな！スゲー…」

「まあ入ってくれ、お茶だすから座つといてくれ」

「わかった」

それから魔理沙に幻想郷のことやスペルカードのこととか色々聞いた、

「そろそろ帰るか？」

「おう」

その後、魔理沙の家についた、

「後であたしの家でお茶しようぜ」

「いいぞ、そんときに魔理沙の友達連れてきてくれないか？」

そう言う少し嫌な顔をしたが、

「いいぜ」

と言った、

「んじやな〜！」

「おう！」

ブオオオオン！！

魔理沙は龍輝が見えなくなるまで見ていた、

「誰呼ぼうかな…？霊夢でいいか」

そう言いながら家の中に入った、

ブオオオオン！！

龍輝は家までラリーの練習をしながら帰った、

「ただいま〜」

誰もいない家に俺の声が響く、

「家…帰れてえな…」

その日はそのまま居間のソファに寝た、

幻想入り？（後書き）

ランサーエボリューション？マジでカッコいいですよ
気になる方はググってみて下さい

それでは感想下さい、あと誤字脱字あったら報告お願いしますm
——）m

お茶会？（前書き）

更新ものすごく不定期です、あまり暇ではないので…
ご了承くださいm——（m

お茶会？

（翌日）

「……………んっ……………朝か…」

「もう昼だぜ？」

あれっ？

なんで家に一人しかいないはずなのに声が？

えっ幽霊？それとも妖怪？しかも昼かよ、寝すぎたな〜

「どうした龍輝？」

声を聞いて思い出した、これ魔理沙の声じゃん、ん？魔理……

「てかなんでいるんだ！！」「いや〜、昨日家帰って見たら部屋が汚くてな〜…アハハハ…だからとりあえず神社いこうぜ！！」

（あんな部屋みせられないしな）

「神社？」

「うん、あつ外来人だから知らないか、博麗神社ってとこだ、そこにあたしの友達がいるから」

（博麗神社キターー（・・）ー！！ってことは霊夢がいるのか？）

「わかった、んじゃ行こうか」

「そついえばお前飛べないのか？」

「えっ？」

飛ぶ？いやふつー無理だから、羽根でもないと飛べないだろ

「ワカラン」

「そうなのか」

いやでももしかしたらできるかも…

「ちょっと試してみる」

「どうすんだ？」

「妄想？（笑）」

そう言いながら魔理沙と外に出た、

（とりあえず背中に羽根を…）

「うわっ！！お前羽根生えたぞ！！」

「まあ見てて」

これで飛べるかな？まあ物は試しだ、

「行くぞー！！」

うん、見事に飛べました、空飛ぶの楽しいかも…

「魔理沙！！俺飛べた！！」

「羽根って…お前妖怪なのか？」

まあごもつともな意見ですな、ふむ…

「残念だけど人間だわ（笑）」

「だよな」

「これが俺の能力みたい」

「空を飛ぶ程度の能力？」

「なんでも作れる能力かな？家も能力で作ったしな」

「へえ、まあ行こうぜ」

「おう」

く移動中く

「ついたぜ」

「疲れた…」

さすがに慣れない動きは疲れる、でも楽しいし以外と気持ち良い、

「霊夢、おい霊夢、居るか」

「うるさいわね…ねえ隣の妖怪が何かなの？」

「あつ、俺、武藤龍輝って言います、んでこの羽根は俺の能力のひとつです」

「ああ、そうなの、私は博麗霊夢、よろしくね」

「よろしく！」

「で…、ところで何しに来たの？」

「お茶会だぜ」

「はあ…そんなもんだと思っただわ、いいわ、あがって」

「んじゃお邪魔します」

「邪魔するぜ」

以外と広いな、とか思っていると、

「はいお茶」

猛烈に指入ってる…！！ってことはなかった、まあそれが普通なんだけどね（笑）

「はい魔理沙」

「ありがとう」

少年と少女雑談中

話し込んでいて時間の経過に気がつかないでいたらもう日が暮れていた

「そろそろ帰るよ」

「そう、気を付けなさいよ、最近なぜか妖怪達が活発化してるみたいだから」

「わかった」

「ぐ〜…」

「魔理沙、起きなさい、そして帰りなさい」

「うにゅ…はっ！！もうこんな時間か、」

「そうよ、それとあの人帰っちゃったわよ？」

「そうか、ならあたしも帰るかな、んじゃ！！」

そう言うとき魔理沙は帰って行った、
ちょうどそのころ…

「グアアアアア！！」

「マジで妖怪キター！！」

俺は妖怪に襲われていた、しかもその妖怪は弾幕を使ってくる、初心者の俺にはけっこうキツイ、

「ヤバッ!!」

とつさに壁を作り出して盾にする、

俺の能力で攻撃なんて出来るのか? ええい!! ダメ元でやってやる!!

適当にスペルカードを作ってみる

「雷符・雷撃無双!!」

無数の雷が妖怪に襲い掛かる!!

「グアアアア……」

「倒した…、疲れた…、早く帰ろつと」

そのあとは妖怪に襲われることなく無事に家についた、

「ただいま」

しーん…

「はあ…誰か居ればいいんだけどな…」

そのまままたソファーにもたれ掛かって寝た、

お茶会？（後書き）

読んでいただいております

初心者なのでストーリーの構成が下手なのでよみずらいかも知れませんがよろしく願いますm（——）m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0481ba/>

～ 東方夢想乱舞 ～

2012年1月14日20時46分発行